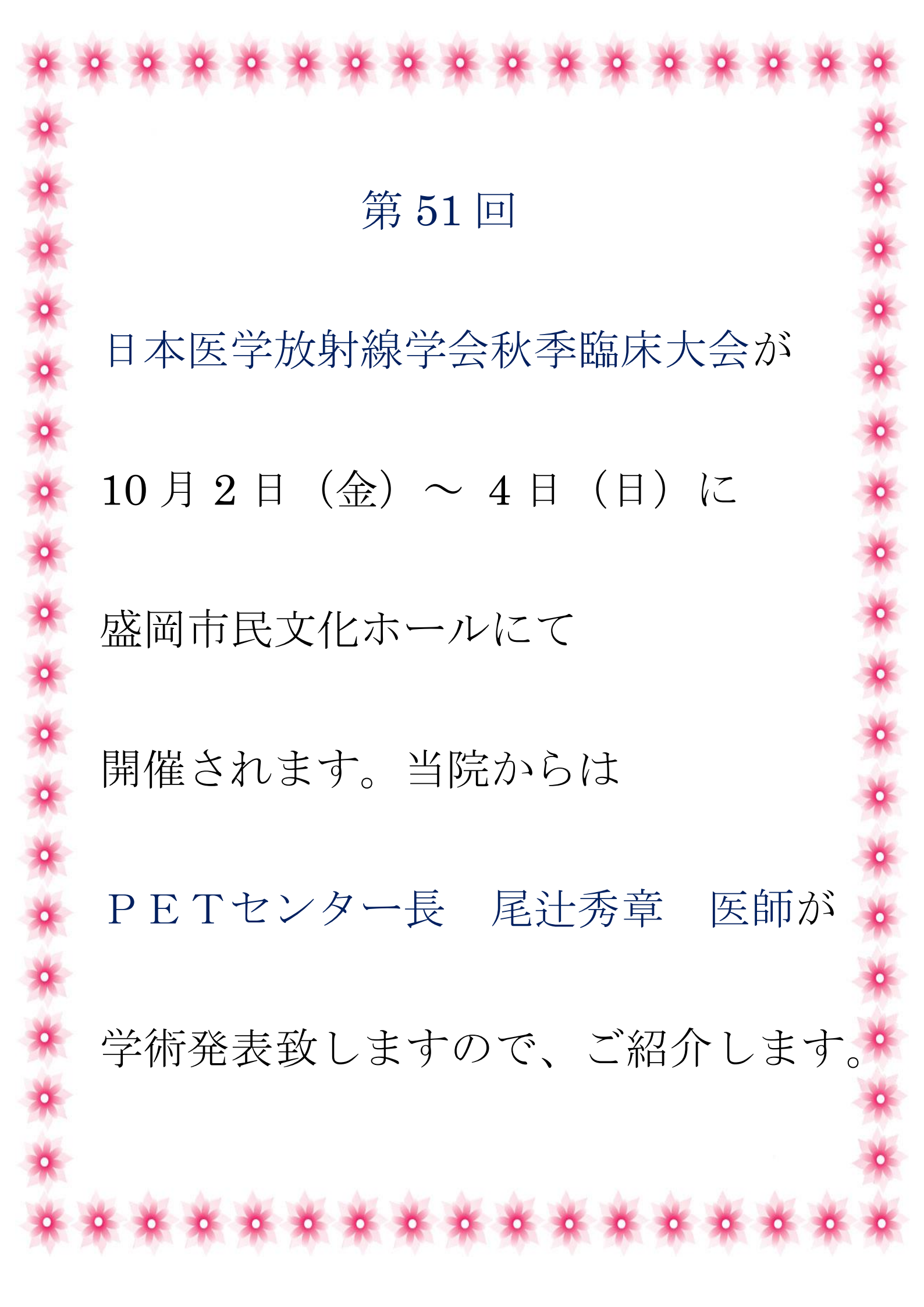


A decorative border of pink flowers with white centers, arranged in a rectangular frame around the text.

第 51 回

日本医学放射線学会秋季臨床大会が

10 月 2 日（金）～ 4 日（日）に

盛岡市民文化ホールにて

開催されます。当院からは

P E T センター長 尾辻秀章 医師が

学術発表致しますので、ご紹介します。

第51回 日本医学放射線学会秋季臨床大会

The 51st Autumn Assembly of the Japan Radiological Society

会期

2015年

10月2日(金) - 4日(日)

会場

アイーナ

いわて県民情報交流センター

マリオス

盛岡市民文化ホール

大会長

江原 茂

岩手医科大学医学部

放射線医学講座 教授

共催

一般社団法人

日本ラジオロジー協会

復興の先にある
進化を目指して

放射線医学が社会に貢献できること

公共交通機関に関するご注意とお願い

2015年10月2日(金)～4日(日)に青森県青森市にて「第34回日本認知症学会学術集会」が開催される影響により、公共交通機関の混雑が予想されます。お早めに確保をお願いいたします。



わんこそば大会
参加者募集のお知らせ

申込受付終了いたしました

世界遺産中尊寺

藤原四代の放射線
科学的調査を振り返る



主催事務局／岩手医科大学医学部放射線医学講座

〒020-8505 岩手県盛岡市内丸19-1

TEL: 019-651-5111(内線3689) FAX: 019-651-7071

運営事務局／株式会社コングレ

〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1弘済会館ビル

TEL: 03-5216-5318 FAX: 03-5216-5552

E-mail: jrs51@congre.co.jp

Left Isomerism の肺葉の検討

西の京病院・メディカルプラザ薬師西の京

放：尾辻秀章、内藤優雅理

清恵会病院

放：津島寿一

奈良県立医大

放：三浦幸子、吉川公彦

正常肺では、右肺は上葉、中葉、下葉の3葉からなり、左肺は上葉、下葉の2葉で構成され、それぞれの肺葉の間には葉間胸膜が存在する。まれに右肺も左肺と同様に2葉で構成される場合があり、**Left Isomerism** と呼ばれる。今回、CT 検査で右肺が2葉からなる症例を経験したので、その解剖学的特徴について検討した。

正常の右上葉気管支の特徴は、気管分岐部からの距離が近く、外側に分岐し、膜様部と連続し、腹側に分岐する肺動脈は気管支の内側に位置し、上肺静脈とは接せず、**Major Fissure** は上葉気管支の背側に位置する。しかし、本例の右第一分岐気管支はこの特徴を持っていなかった。

本例の右第一分岐気管支は、気管分岐部から遠く、膜様部とは離れ、葉間肺動脈は気管支の頭側を乗り越えて外側に走行して腹側に分岐する気管支の外側に肺動脈が位置し*、さらにその外側に **Major Fissure** が位置し、内側で上肺静脈と接していた。これらの特徴は正常の右中葉気管支の特徴と合致した。つまり、本例の右第一分岐気管支は本来の右中葉気管支であると結論づけられた。

両側の下葉は正常例と同様であり、ほぼ対称であり、**Left Isomerism** と診断した。

*：右中肺動脈が縦隔型の場合は、起始部では肺動脈が気管支の内側に位置する。

*

Right Isomerism の肺葉の検討

西の京病院・メディカルプラザ薬師西の京

放：尾辻秀章、内藤優雅理

奈良県総合医療センター

放：堀川典子、中川裕之

奈良県立医大

放：三浦幸子、吉川公彦

正常肺では、右肺は上葉、中葉、下葉の3葉からなり、左肺は上葉、下葉の2葉で構成され、それぞれの肺葉間には葉間胸膜が存在する。まれに左肺も右肺と同様に3葉で構成される場合があり、**Right Isomerism** と呼ばれる。今回は肺癌の術前 CT 検査で左肺も3葉からなる症例を経験したので、その解剖学的特徴について検討した。

正常の右上葉気管支の特徴は、気管分岐部からの距離が近く、外側に分岐し、膜様部と連続し、腹側に分岐する肺動脈は気管支の内側に位置し、右上肺静脈とは接せず、**Major Fissure** は上葉気管支の背側に位置する。本例の左第一分岐気管支でも、**Major Fissure** の頂上部が不鮮明であったが、それ以外は右上葉気管支の特徴を保持していた。

一方、正常の右中葉気管支は、気管分岐部から遠く、膜様部とは離れ、葉間肺動脈は右中葉気管支の頭側を乗り越えて外側に走行して気管支の外側に肺動脈が位置し*、中下葉分岐部の外側に **Major Fissure** が位置し、内側で上肺静脈と接している。本例の左第2分岐気管支もこの特徴を保持しており、右中葉に相当すると診断した。

両側の下葉は正常例と同様であり、ほぼ対称であった。つまり、右の3葉に相当する肺葉が左にも存在しており、**Right Isomerism** と診断した。

*：右中肺動脈が縦隔型の場合は、起始部では肺動脈が気管支の内側に位置する。